

経口免疫療法（４）

極微量のアレルゲンを毎日接種していき少しずつ量を増やしていく、という経口免疫療法を安全に行うコツは前回にも明らかにしましたように、アレルギー症状を引き起こさずに食べられる最大量の 10 パーセント以下から慎重にアレルギー反応が身体中どこにも、何の症状にも出ていないことを確認しながら、毎日食べ、そしてほぼ一週毎に 1.5～2 倍ずつ増やしていくやり方です。

その際の量の確認や症状の有無は O-リングテストなしでは、とても安全にはできません。1mg の卵や 100 万分の 1ml の牛乳はそれらのアレルギーを持っていない人にとっては、良いも悪いもありません。何の反応も無い量なのですが、それらにアレルギーを持つ者にとっては、その微量でも、O-リングテストでは、なおアレルギー反応を起こす量であったり、逆に体にとっても必要な量であったりするのです。後者を言い換えれば、病気を引き起こす物質が病気を治す、とも言えます。このような現象を、ホメオパシー医療では、アイゾパシーといいます。250 年も前からわかっていたことに、やっとたどり着いたのかと思うと、いろいろと考えさせられます。

最近では、一人暮らしになる、旅に出る、など必要に迫られ、特異 IgE 抗体が 200 以上の方にも行いましたが、最初の量を慎重に選べば安全に行うことができるということが解りました。また、風邪を引いたり胃腸炎になったり、過労、睡眠不足、過食、他のアレルゲン負荷、心労などで体の免疫力が低下しているときには、量を増やさず、または量を減らして続けて行くことが必要だ、とわかりました。

経口免疫療法で症状がでた、悪化したという方のほとんどが、別の原因でした。これは、診察にいらしていただかなくては解らないのですが、いらしていただくと、ほとんど解りますし、今後の方針が明確になります。

アレルギーの強い場合はアレルゲンの与え方にも注意が必要です。同じ量を与えても、生や加熱の程度が弱いとアレルギーを起こしやすく、何かと混ぜて濃度をうすめないで、そのままとアレルギーを起こしやすく、また、アレルゲンを食べているという意識が強いとアレルギーを起こしやすくなりますので、食事やおやつのなかにわからないように混ぜてみてください。

最終的にどこまで増やすのかという問題ですが、特異 IgE 抗体の高さと O-リングテストで何度か最適量を調べて決めていきます。アレルギー反応を起こさずに進められた場合 IgE 抗体は低下することが多くみられます。時々、調べてみる事をお勧めします。

また、たまにしか食べないものには経口免疫療法を行いませんが、事情（地域や家庭の食習慣など）によりご希望の方はご相談ください。一緒に考えていきましょう。

鈴木富美